医療史跡

レントゲン博物館

レントゲン（Wilhelm Conrad Röntgen：1845～1923年）の生誕の地でもあるレンネップ（Lennep）は，歴史のある中世風の古い町である。1929年にレムシャイド（Remscheid）に合併されたので，今はレムシャイド・レンネップとなっている。

旧レンネップ駅前から，リング状の道を左手へ進路をとり，Deutsches Röntgen Museumの標識に従ってスレート屋根の家々と曲がりくねった道を20分ほど歩く。

レントゲン博物館（**写真1**）にはレントゲンの生涯や，博士の使用した書籍，家具などが展示されている。その他，X線発見当時の実験器具からレントゲン装置の発展の歴史のほか，第一次世界大戦で活躍した装置などがあり，X線発見直後から医学に活用された歴史が示されている（**写真2**）。

X線は，科学技術と医学が融合したイメージング技術にほかならず，多くの領域と密接に関係して発展している。それは，レントゲンが発見について特許権を主張せず，X線が人類の医療・科学のために利用されたからにほかならない。

博物館では，レントゲンの研究成果を，専門外の来館者にも理解しやすいようにテーマごとに展示している。さらにX線を応用した機器の豊富なコレクションだけでなく，体験ラボラトリーでは，好奇心を刺激し，知識を伝え，科学する愉しみを来館者に与える“科学とテクノロジーの博物館”でもある。

レントゲン博物館を出て左に折れ，その先の分岐を右手に行くと100 mほどでレントゲンの生家があり，ドイツ語で書かれた次のような銘板が掲げられている。

「この家でウィルヘルム・コンラッド・レントゲン　彼の名にちなんだ線の発見者が1845年3月27日に生まれた。生まれ故郷の町は1896年名誉町民の称号を贈った。」

写真1　レントゲン博物館

写真2　**1900年頃のX線室を再現したもの**

■ 参考資料 ■

1）社団法人日本放射線技師会，ドイツ・レントゲン博物館，日本放射線技師会雑誌1995年8月号付録（1995）
2）山崎岐男，孤高の科学者W.C.レントゲン，医療科学社（1995）
3）諸澄邦彦，X線発見から120年 レントゲンゆかりのドイツ紀行，日本診療放射線技師会誌JART，**62**(747)，58–64（2015）

〔日本診療放射線技師会　諸澄邦彦〕